別紙第６号様式

国立大学法人香川大学学長候補適任者所信

平成２９年４月２７日

国立大学法人香川大学学長選考会議議長　殿

学長候補適任者　氏名　大平文和（自署）

「知の循環プラットフォームとして、地域と共に発展する大学」を目指して

１．はじめに

２１世紀の知識基盤社会において、高等教育の中核となる大学の役割は益々重要となっています。「高度な専門的学術の研究および教授を主たる機能とする」大学の基本理念を基盤としながら、同時に、地方創生、大学全入時代の到来などの時代背景に対応すべく、大学は地域に根差した社会貢献という視点を持ち、常に変革していく必要があります。

２．本学が目指す方向と課題

本学は「地域貢献、特定分野重点支援拠点」として、下記を目指します。

（１）高度専門職業人の養成を目指す「基礎力を重視した実践的教育による学生中心の大学」

（２）各学部・研究科等の特性に基づく「特徴的分野に傑出した研究大学」

（３）上記の教育・研究の成果に基づく「社会と交流し、社会に貢献する大学」

本学の改革は待ったなしの状況であり、強い危機感を持って運営にあたる必要があります。本学の状況を鑑みたとき重要課題は下記と考えます。

（１）大学改革の断行（学部改革の完遂と、学部改革と連動した大学院改革の実行）。

（２）第３期中期目標・中期計画の着実な実行と達成。

（３）地域社会と連携した取り組みの一層の強化。

（４）学内の教職員、学生、及び学外ステークホルダーとの共通認識の下に施策を推進する学長のリーダーシップの発揮。

３．重点施策

これらの課題に対し、私は、企業でのマネージメントの経験、様々なプロジェクト創出により多くの外部資金等を獲得した経験、工学部長、理事としての運営の経験（科研申請チェック体制、学系制など）、そして放送大学センター所長としての生涯教育とセンター運営の経験を活かし、下記を重点施策として取り組みます。

（１）香川大学の改革は、今からが真の正念場です。学部改革の着実な実行とその充実なくしては本学の将来はないとの覚悟のもと、学長として学部や地域との密接な連携を図り推進します。想定される各種課題の解決に向けた支援、および入口、出口となる地域の学校、行政、企業へのトップマネージメントを行います。

（２）社会の要請に応える大学院の在り方を議論し、学際領域の新研究科の設置や既設研究科の統合も視野に入れた改革案を策定し、大学院改革を推進します。

（３）大学は有為な人材を輩出するため、知識を「教」えるだけでなく、知を生み

出す能力を「育」てる教育を行う必要があります。特に教養教育は重要であり、基礎学問の徹底的な学習指導と、自ら課題探究、解決策提示、実行する力を育てるためのPBLを中心とするアクティブラーニングの積極的な実施を図ります。「出口からみた教育」の視点から、深い教養に裏打ちされた人間力の養成と、実践力の養成の両輪を実現するため、「未来を拓く香川人（地域人）」の教育として地域の行政機関や企業と連携した教育を行う体制を作ります。

（４）地方大学においても、特徴的研究分野でトップ大学と伍していくべきであり、また地域と一体となった研究テーマも多く考えられます。これまで蓄積した研究シーズの展開と併せて、研究戦略室が中核となり、人文社会系、自然科学系の枠を越えた香川大学の特徴的研究を創出します。また、「未来の香川（地域）」のためのニーズ対応研究の実施も支援します。推進に当たっては、教員個人からの提案を待つだけでなく、各省庁等の計画の情報収集に基づいて本学としてのプロジェクト創出を積極的に行い、県や地域企業とも連携して外部資金獲得を図ります。

（５）企業、学校、行政機関、コミュニティ等との連携を一括してマネージメントする「社会貢献戦略室」を設置し、ここを中核として、連携情報の共有化と要望に応じた窓口の一本化を図ります。これにより、地域社会の要望に対し、総合大学としての多面的な対応を実施します。

（６）大学の活動を、教育、研究、社会貢献と分けるのではなく、連動した一体的活動とすべきと考えます。従って、この３分野に横串を通した運営と高機能化を図るとともに、将来のあるべき大学像を描くため、「総合未来戦略室」を設置します。

４．運営の基本的考え方

（１）三位一体の運営体制

①学外に対しては、地域の産、官と三位一体となり教育・研究を推進します。

②学内においては、教育、研究、社会貢献の三位一体化による運営を一層推進します。

（２）各戦略室の情報共有と総合戦略の構築

新たに設置する「総合未来戦略室」が中核となり、教育と研究と社会貢献が地域の中で連動しながら進展する「知の循環プラットフォーム」の役割を果たします。これにより、本学が、地元校からの入学、PBL・インターンシップ、共同研究、卒業、就職、大学院入学、生涯学習等の知の循環拠点として機能し、地域と共に発展する大学を目指します。また、大学間連携等を含めた将来ビジョンを描きます。

（３）学長のリーダーシップに基づく運営

大学改革推進の担い手は教職員です。改革の成否は教職協働にかかっています。学長として、全学将来ビジョンを示した上で、客観的データ(IR)に基づきアカウンタビリティを果たすことにより情報の共有化と透明化を図り、本学が教職員一体となり改革を推進できるようリーダーシップを発揮します。

５．おわりに

我々には期待してくれる地域社会があります。本学は、知の拠点として地域社会と共に発展する大学を目指します。私は学長として、学生のため、地域社会のため、本学の未来のため、改革の先頭に立ってリードしていく所存です。